熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2024.4.22
第 236号
発行 入試・広報課

新たなアスリート支援の形を

競技力向上へ大牟田高駅伝部と協力

健康・スポーツ教育研究センター

レポート

地面反力計を使いジャンプ力を測る大牟田高駅伝部の部員

高校駅伝の強豪で昨年末の全国高校駅伝男子で６位に入賞した大牟田高校（福岡県大牟田市）の駅伝部員34人が15日（月）、本学を訪れ、機器を使った筋力や呼気ガスなどの測定・評価や栄養セミナーなどを受けました。健康・スポーツ教育研究センターが協力し、今後、年に数回の能力測定会を予定。各種測定値の変化を見ながら、効果的なトレーニング法などを模索していきます。

継続的に能力測定 トレーニングに生かす

同校駅伝部は、センターが毎年夏、水上村湯山で行っているスポーツ合宿支援事業に参加しています。各種測定を継続的に行うことで、トレーニングの効果を上げたいという同校と新たなアスリートサポートの手法を探りたいというセンターの思惑が一致。継続した測定会を開催することになりました。

取り組みには、本学と包括連携協定を結ぶ明治も協力。第１回となるこの日は、数々のトップアスリートを栄養面から支えている同社の管理栄養士、大前恵さんが「栄養セミナー」を開講。全体講義の後、選手たちの質問に個別に対応しました。

計測は各学年記録上位者３人ずつ計９人の選手を対象に行いました。体組成や骨密度など、水上合宿で行った項目のほか、長距離選手のパフォーマンスに直結する呼気ガス分析、厚底シューズ対策をにらんだリバウンドジャンプ力などをセンター保有の最新機器を使って計測しました。

「これだけのサポートは、体育学部を持たない医療系大学としては類を見ない取り組み。栄養面の知見がどう反映されるかも楽しみ」と松原誠仁副センター長。同校駅伝部の赤池健監督も「（計測を）定期的に行うことでトレーニングのやり方も変わってくるはず。将来この中から一流のランナーが出てくれば、データの推移も見ることができ、大学ともウイン・ウインの関係を築くことができる」と期待を口にしていました。（NL編集部）

本学スタッフに補助され、前屈時の筋の柔軟性を測る駅伝部員（左）

栄養セミナー後、部員たちからの個別の質問に答える大前さん（左）

コロナ禍乗り越え 高い合格率維持

2023年度 国家試験総括　　上妻　行則 国家試験対策委員長

近年の医療の進歩は目覚ましく、医療従事者を目指す学生にとって国家資格を取得するために身につけなければならない知識・技術は膨大です。それにもかかわらず、この春卒業した４年生は、コロナ禍のために入学式を実施できず、さらには思い描いていた大学生活が送れず、そして日々の学習に関しても多くの制限があり、大変苦労した学年です。当たり前にできるはずのことが当たり前にできない苦しさや不安。その大きさは計り知れません。そんな中、2023年5月に新型コロナウイルス感染症の５類感染症への移行に伴い、ここ数年実施できなかったグループ学習など国家試験対策としては効果的な勉強方法が実施できた時の喜びは大きかったに違いありません。

また、近年見ることができなかった国家試験直前のオープンスペースや図書館、さらには教室・ゼミ室などに多くの学生が集い、勉強している姿に安堵した先生方も多かったのではないでしょうか。私もその一人です。その結果、各学科・専攻ともラストスパートは素晴らしく、先の国家試験では理学療法士、言語聴覚士、助産師では合格率100%を達成することができました。

一方、臨床検査技師、看護師、保健師、作業療法士は全員合格とはなりませんでしたが、全国平均を上回る合格率を達成することが出来ました。これもひとえに、学生に寄り添い、一致団結し国家試験対策に取り組んでこられた各学科・専攻の先生方、国家試験対策委員の皆様、職員の皆様のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。そして何より、コロナに負けまいと、この4年間勉学に励んでこられた学生の皆様に敬意を表したいと思います。最後に2024年度こそ「全員合格」を目指し頑張ってまいりますので、皆様のお力添えを何卒よろしくお願い申し上げます。

基礎セミナー開講

学科混成･･･内容多彩に33講座

本学の初年次教育の目玉でもある「基礎セミナー」が、10日（水）、開講しました。本年度も多彩な内容の33講座が用意され、７月17日（水）には学習の成果を披露する合同発表会も予定されています。

「終末期ケアを考える」「人生ゲームを創ろう」「折り紙を楽しむ」「ペット事情について考えよう！」など、各講座のテーマは、いずれも担当教員のアイデアが詰まったユニークなものばかり。１講座あたり12人程度で構成され、受講生はフィールドワーク、実験、創作、共同作業など、テーマに応じた活動を通じ、体験的・実践的に学びの手法を身につけていきます。また、各講座とも学科混成のクラス編成となるため、例年、入学したばかりの１年次生にとっては仲間を増やす絶好の機会にもなっています。

合同発表会は、コロナ禍のため一時中断していましたが、昨年、４年ぶりに再開。セミナーを統括する共通教育センターの東谷孝一センター長は「昨年度の蓄積もあり、本年度は楽しく（発表会を）やれるのではと期待しています」と話していました。（NL編集部）

2024年度基礎セミナー一覧

セミナーテーマ	担当教員
終末期ケアを考える	渡辺　雄一
医学と文学の接点を取り扱った渡辺淳一文学を探る	土井　篤
一日に必要なカロリーってどれくらい？	田中　恵理
お昼なに食べる？	徳永　郁子
「平和」を学び、「平和」をもたらす人になる	東谷　孝一
スパイスカレーをつくってみよう	上妻　行則
折り紙を楽しむ	船越　和美
楽しく勉強する自分なりの方法を見つけよう	水本　豪
ノートの取り方徹底研究	向井　良人
食べること・飲み込むことの障害について考えてみよう！！	松原 慶吾
「あたりまえ」を問い直してみよう～ジェンダー・恋愛・結婚・病い・医療	川口　弥恵子
色の不思議	松尾　朗
いいねを発見する研究（写真調査法の体験）	井﨑　基博
コンピュータの仕組み	山鹿　敏臣
くまもとをうろんころん　みんなで発見！地域のキラリ☆よかとこ	角　マリ子
おいしい珈琲（コーヒー）を科学する：おいしさの見える化	古閑　公治
くすりはリスク（そのリスクを回避するために）	安楽　健作

セミナーテーマ	担当教員
星の一生	竹永　和典
おはなし会をつくってみよう	山口　類
自由であれ！導け熊本～インクルーシブ社会へ～	澤﨑 美香
自他の「強み」を見つけよう	仙波　梨沙
分かりやすい表現の技術を獲得してみよう	大澤　早苗
ラテン文化に触れよう　～Hola！amigo!～	井上　加奈子
居心地のよい空間/住まいとは　～見取り図から見えてくるもの～	岡　順子
錯覚の不思議な世界を体験してみよう！	小手川　耕平
子宮頸がんについて調べてみよう	亀山　広喜
趣味を科学する	久保下　亮
発酵食品から細菌を分離しよう	正木　孝幸
人生ゲームを創ろう	矢野　正人
熊保大版UDマップをつくろう	中原　和美
ペット事情について考えよう！	野中　喜久
この文房具がおすすめ	渡邉　敏之
阿蘇を活用した健康増進最強プログラムを作る	岩下　佳弘

声を合わせ懸命に綱を引く看護学科の1年次生たち

チームワークで勝利目指せ！

看護学科１年 恒例の綱引き

看護学科１年次生による「綱引き」が12日（金）、アリーナで行われました。「看護セミナー」授業の中のチームワーク演習の一環として行われている〝恒例行事〟です。

この日は、123人の学生が「デコポン」「トマト」など熊本県の名産品にちなんで名付けた8つのチームに分かれて熱戦を繰り広げました。学生たちはチーム内で作戦（綱を引く際の掛け声の工夫や綱の引き方など）を練り、チーム一丸となって綱引きに臨みました。チームに関係なく大きな声で応援するなど、学生たちは心と体を精いっぱい動かし、大いに盛り上がりました。

勝敗を超え、チーム力の活動を通して得るものが多くあったようで、「新入生でお互いのことを知らない者同士であったが、『勝つ』というゴールを共有することで距離が縮まり、仲良くなった」「チームワークの大切さを学んだ」「意見を出し合い、共有することで仲間意識が芽生えた」などの感想が聞かれました。

（看護学科　吉野拓未）

魅力ある看護学科願い「語り合いカフェ」

今後の大学教育を考えた時、学生にとって魅力ある学部教育を行っていくには、学部教育の充実が欠かせません。看護学科では、学科長の声かけのもと有志が集まり、教育について自由に語り合う「カフェ」を始めました。

３月21日（木）に開催された「第１回語り合いカフェ」には、18人の教員が参加。「魅力ある看護学科にするために」というテーマで、それぞれが日頃感じている教育についての思いや課題について、お茶を飲みながらざっくばらんに語り合いました。

教員同士お茶を飲み 領域超えて意見交換

参加した教員からは「大変有意義だった」「日頃から領域横断的に交流したり話したいと思っていたので、貴重な機会だった」「教員の背景、知識、価値観も様々であることがわかった」などの感想が聞かれ、カフェは盛会裏に終わりました。

今後も看護学科では、学生にとって魅力ある学部教育を行っていくために「語り合いカフェ」を定期的に実施しながら、並行して研修会やワークショップなどを企画していきたいと考えています。

（看護学科　井上加奈子）

表彰式後、竹屋学長らと記念撮影する学生たち

令和５年度 成績優秀者21人を表彰

令和５年度の成績優秀者表彰式が10日（水）、1300講義室Ｌであり、竹屋元裕学長が学部生21人に表彰状と奨励金を手渡しました。

表彰後、竹屋学長は「蝶にたとえると、皆さんはさなぎです。殻を破り空にはばたく時が卒業となります。頑張り次第で羽の大きさが変わってくると思います。ぜひ大きな羽を携えて医療人として飛び立ってください」と、学生たちを励ましました。

被表彰者は次の通り。（敬称略＝丸数字は学年）
◇医学検査学科　後藤菜々子②、黒木結衣②、青木里津那③、山下彩楓③、 庄野里菜子④、 福島ひなの④◇看護学科　松本彩那②、原尾穂香②、原田佳波③、野見山梨子③、塚脇琴子④、野方塔子④◇リハビリテーション学科理学療法学専攻　田中李佳②、請関彩花③、坂本希々風④◇同生活機能療法学専攻　松房実佑②、桑畑采実③、井上沙耶④ ◇同言語聴覚学専攻　三原梨渚②、橋口璃央③、伊達ひなた④

「子宮頸がん検診受けて」 本学学生ら啓発活動

「子宮の日」（４月９日）にちなんだ子宮頸がんの啓発活動を14日（日）、菊陽町のゆめタウン光の森で行いました。本学からはボランティアサークルGenerationメンバーを中心に22人が参加。熊本県細胞検査士会の会員と共に啓発パンフレットと生理用品、ティッシュが入った袋を買い物客に配布しました。

この日は750袋を用意し、学生たちは店の入り口や出口、連絡通路の4か所で買い物客に「子宮頸がん検診のご案内です。よかったらどうぞ」と声を掛けながら配布しました。特に若い女性がかかりやすい病気なので、そうした人たちを意識して配布しました。

今回配布した資料に目を通してもらい、子宮頸がんの検診やワクチンを接種するきっかけにつなげてほしいと感じました。日本は先進国の中でも子宮頸がんの罹患率が高いので、啓発活動により罹患者が減少することを期待しています。

（医学検査学科３年　石津結樹子）

ゆめタウン光の森で行った子宮頸がん検診啓発活動の参加者たち

新任教員 私の研究 1

本年度、本学に赴任した教員の皆さんの研究内容を紹介します。

黒田　誠
医学検査学科教授

多様な病原体のゲノム解析

筑波大学で学位取得後、順天堂大でMRSAゲノム解析、国立感染症研究所で多様な病原体のゲノム情報解析に従事しました。個々の分離株の特徴を深堀りしたり、複数株の比較ゲノム解析から株固有の特徴を解明したり、感染症疑い症例のNGS診断も多数実施しています。本学において、臨床検体から分離・同定・ゲノミクス・情報解析までいっきに完遂できる人材を育成し、ゲノミクス研究の促進を図っていきます。

富田　文子
医学検査学科教授

血管の蛇行・分岐の影響

これまで、超音波技師としては主に血管超音波検査による研究を、管理者としては臨床検査室における人材育成やインシデント報告の実態調査や報告収集の取り組みにおける効果などを研究して参りました。今後は、血管超音波検査による血管の蛇行・分岐と血流の関係、およびそれがもたらす血管壁への影響や、超音波検査時の無理な体勢による検査者への負担軽減にむけた研究に取り組み、提言につなげていけたらと思っております。

◇「週刊NEWSLETTER」237号は４月30日（火）に配信します。